

お金の教育 2

ファイナンシャル・プランナー 永野 智子

「苦勞して、汗水流して稼いだお金のみに価値がある。」「身体を動かさずに手に入れたお金は悪い物。」「単なるお金儲けは不潔。」これらは以前良く言われていたフレーズです。昔はお金の話をするのはどこか卑しいような風潮があり、人前どころか家族間でもあまりお金について話す機会がありませんでした。

お金は等価値の物やサービスと交換するための道具です。お金自体に善悪があるのではありませんが、使い方次第で様々な影響を及ぼします。そのため、お子様へのお金の教育は可能な限り行うのが良いと言えます。前回のテーマは、お子様へのマネー教育を始めるきっかけや、その内容について簡単に事例をご紹介しました。今回はお小遣いを貰う頻度や金額などをご紹介します。

◆お小遣いの額や頻度はどのくらい？

小学生にもなると、お小遣い制を取り入れるご家庭が増えてきます。お小遣い制を導入する際には、一体どの程度が適当な金額なのかが気になりますか？そこで、世帯主収入別にこどもの1カ月当たりのお小遣い額、お小遣いを貰う頻度とその額を図表 1.2 にまとめました。

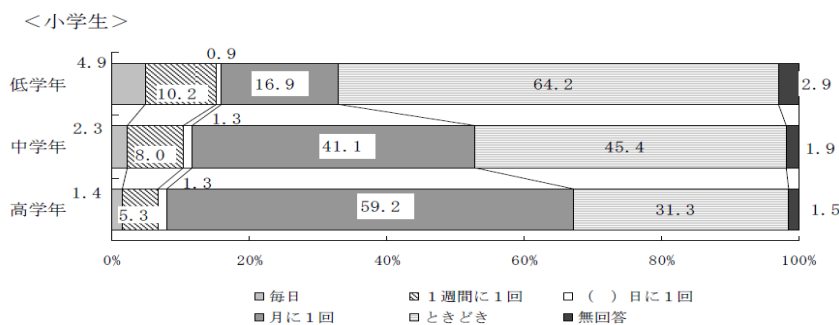
図表 1：こどもの小遣い月額

(単位:円)

年間収入別/就学別	小学生 未満	小学生			中学生	高校生	大学生等
		1・2年	3・4年	5・6年			
全体	936	789	960	1,406	2,383	6,736	29,083
収入はない	-	-	1,500	-	-	-	-
300万円未満	1,500	1,125	1,500	1,857	2,759	6,571	27,273
300～500万円未満	514	712	768	1,337	2,093	5,388	18,947
500～750万円未満	925	569	936	1,000	2,152	6,269	26,942
750～1,000万円未満	500	700	1,038	1,723	2,939	8,289	36,282
1,000～1,200万円未満	-	1,150	500	750	3,167	8,550	33,182
1,200万円以上	1,033	1,150	1,833	2,667	3,538	9,313	34,138
無回答	1,460	1,025	620	1,400	2,125	6,792	29,000

出所：金融広報中央委員会「家計の金融行動に関する世論調査」（2010年）より著者作成

図表 2：おこづかいのもらい方・おこづかい額



出所：「子どものくらしとお金に関する調査」（2005）

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

		最頻値	最も多い金額帯	次に多い金額帯	平均値	中央値
月に1回	低学年	500円	500-700円 (24.4%)	1,000-1,500円 (16.1%)	901円	500円
	中学年	500円	500-700円 (31.9%)	1,000-1,500円 (22.7%)	812円	500円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円 (34.0%)	500-700円 (32.9%)	1,122円	1,000円
ときどき	低学年	100円	100-200円 (32.4%)	1,000-1,500円 (14.1%)	760円	200円
	中学年	100円	100-200円 (24.3%)	500-700円 (17.5%)	854円	300円
	高学年	1,000円	1,000-1,500円 (25.2%)	500-700円 (23.3%)	1,046円	550円

出所：「子どものくらしとお金に関する調査」(2005)より著者作成

図表2をご覧頂くとお分かりのように、やはり幼いお子さんへのお小遣いは、まだお金の管理ができないので、少額をときどき渡す傾向が強く見られ、年齢が上がるにつれて、月に1度ある程度まとまった金額を渡す傾向にあります。続いて、お小遣いの使い道を見てみましょう。

図表2：おこづかいの使い方

		飲食物 (おかしや ジュース)	ノートや えんぴつなど	まんが	本や雑誌	親への プレゼント	CD・MDの購入	友人との 外食・軽食代
小学生	低学年	(1)42.4	(2)29.7	(3)23.3	(5)15.1	(4)21.6	-	-
	中学年	(1)55.3	(3)34.7	(2)44.8	(5)23.9	(4)33.2	8.5	-
	高学年	(2)61.7	(5)34.0	(1)63.2	(3)42.6	(3)42.6	25.6	14.4
中学生	(2)72.0	(5)58.5	(1)74.0	(4)59.2	41.4	(3)59.6	56.8	
高校生	(1)81.3	50.6	(4)69.8	(5)66.3	40.7	(3)70.3	(2)75.7	

(注)カッコ内は各学年段階における順位。中学生・高校生では「本や雑誌」は「小説や雑誌」。

出所：「子どものくらしとお金に関する調査」(2005)より著者作成

まだまだおやつに費やす金額が多いですが、年齢が上がるにつれて文具や本など、お小遣いの用途が広がってきているのが分かります。お小遣いで賄う対象物を増やす場合は、それに応じた金額を渡し子どもの自主性を尊重しつつも、お金の管理方法を教えましょう。また、小学校高学年にもなると、日常生活に係るお金の他にも習い事や塾などにもお金がかかる時期です。定期的に渡しているお小遣い以外にも、お子様にか掛かるお金について話したり、お父さんやお母さんが一体どのようなお仕事をしているのかを通して家計の収支について話し合うことで、お子様にお金に関する感覚が自然と身につく、いずれは経済感覚が身につくようになります。他にも、家族で協力して節約が行えるなどといった、二次的メリットが発生することもあります。

昨今ではお金に関する情報を簡単に入手することができます。また、子ども向けに金銭感覚を養うようなゲームも出ています。それらを使うことによって、抵抗なく、むしろ楽しみながらお金の知識を付ける事が可能です。また、金融庁や財務省、金融広報中央委員会などのホームページにて子供むけのコンテンツが多く掲載されています。これらの内容は子供向けといえども、大人が読んでも十分読み応えのある内容です。こういった情報を十分活用して、お子様と一緒にお金について改めて勉強してみるのも良いのではないのでしょうか。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.